

区役所・相談支援室における 各機関との連携度について

事業の進捗管理

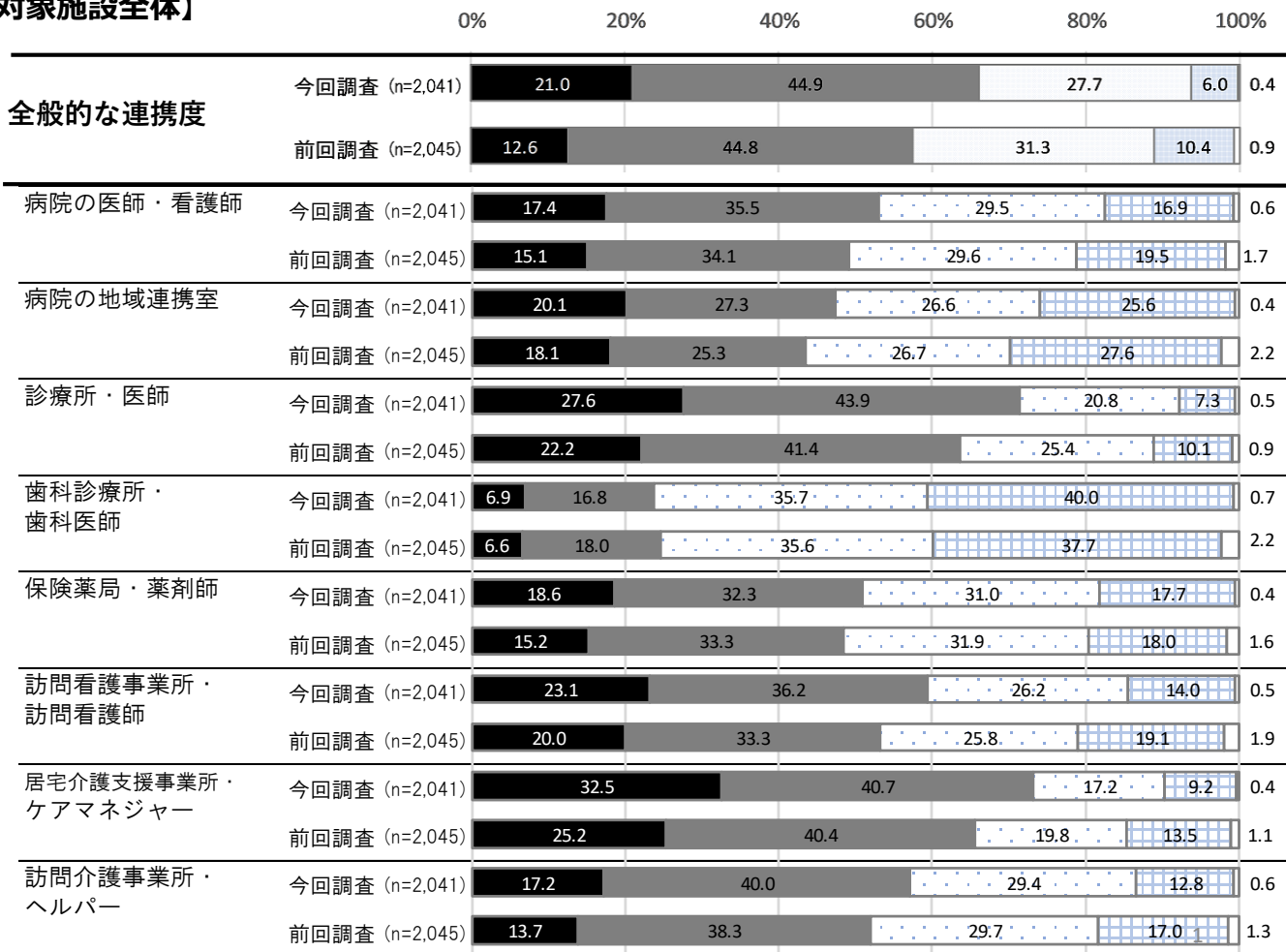
(参考) 医療施設等（＊）における連携度

(令和３年度 大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する医療施設等アンケート調査より)

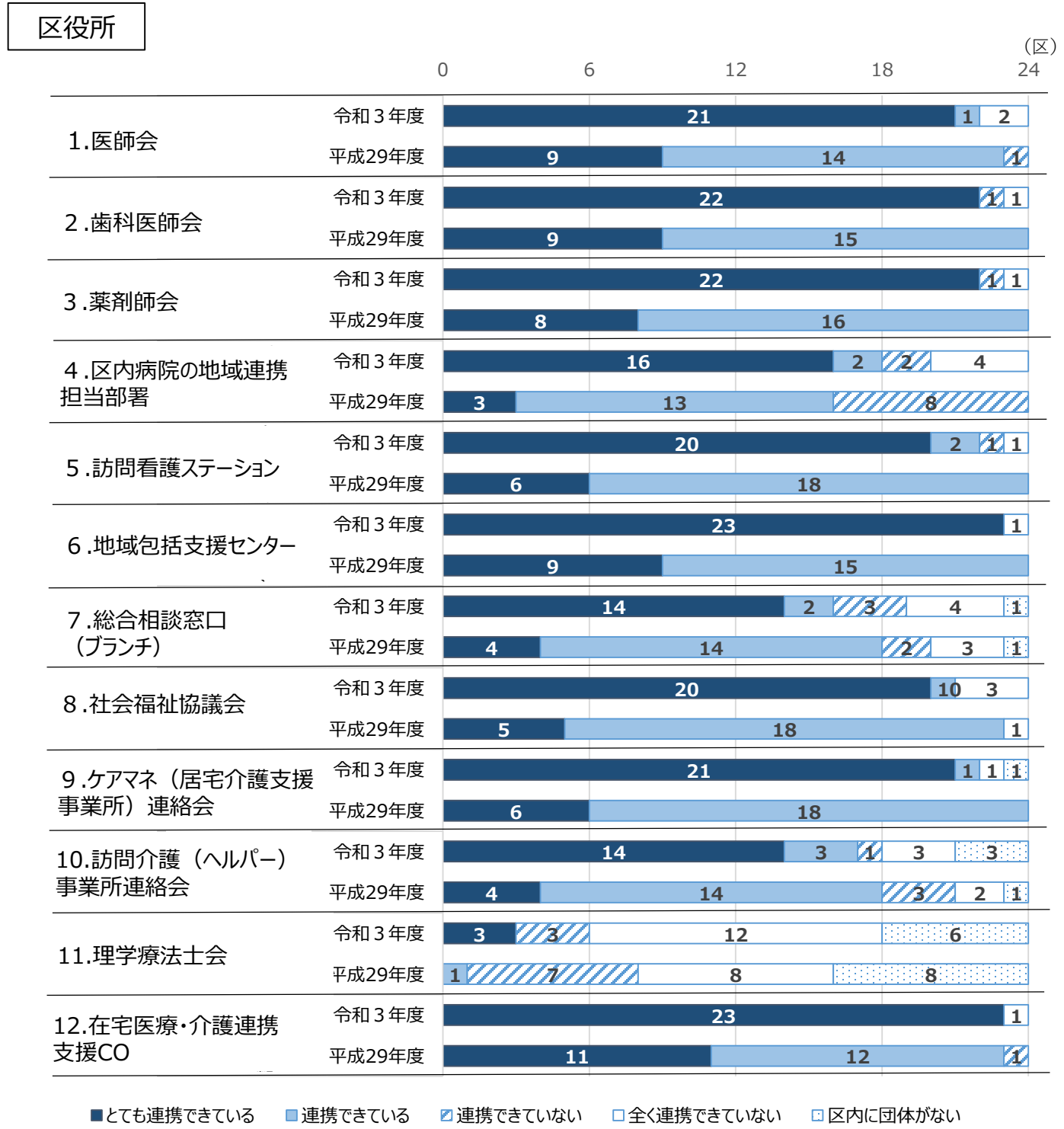
＊医療施設等：病院、在宅療養支援診療所、在宅療養支援歯科診療所、在宅患者訪問薬剤管理指導料届出薬局、訪問看護ステーション

今回調査：令和３年度 前回調査：平成29年度

【対象施設全体】



■連携できている ■やや連携できている □あまり連携できていない □連携できていない □無回答



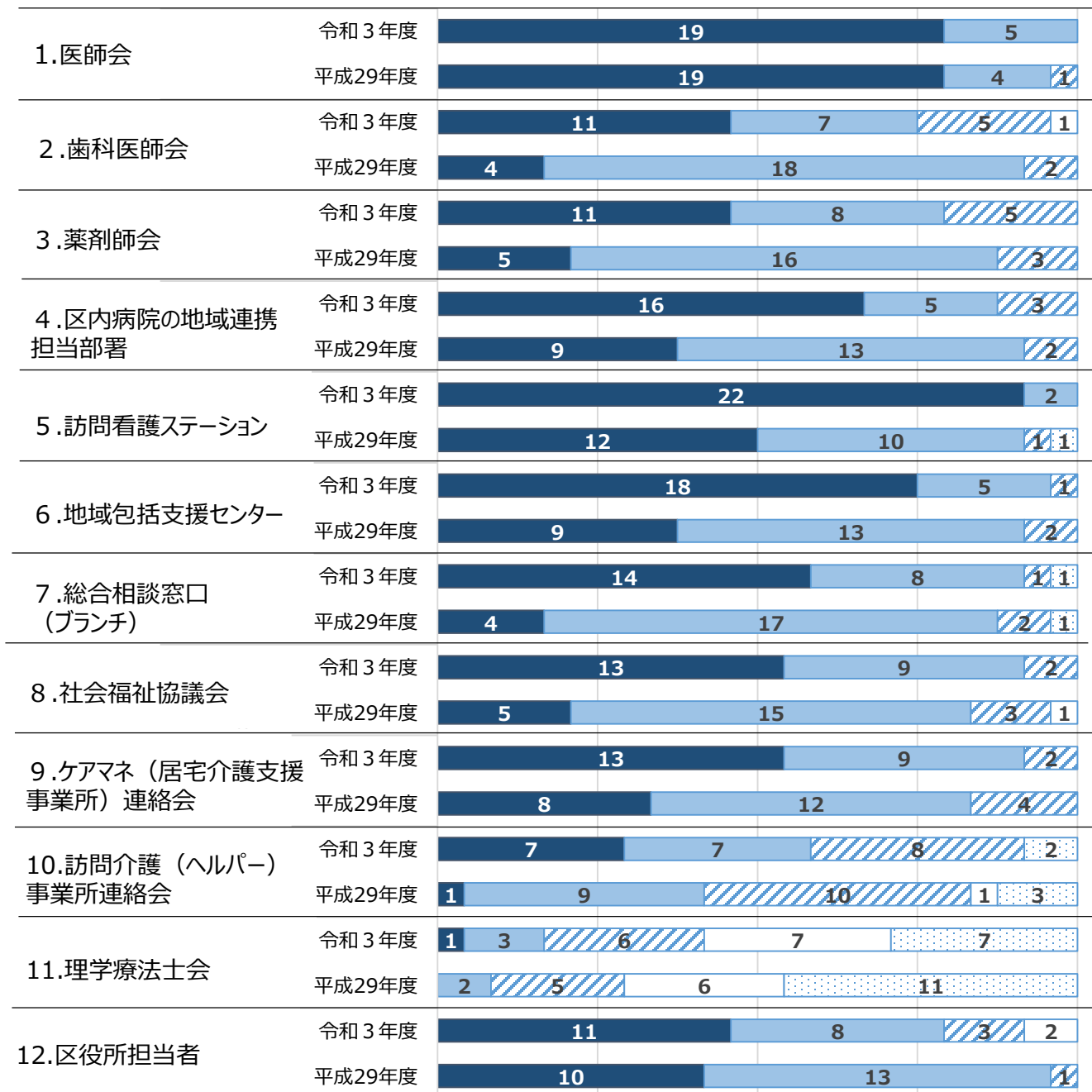
・全体として、関係機関との連携において、「とても連携できている」と回答した区の数が増加している。

・『7.総合相談窓口(ブランチ)』、『10.訪問介護(ヘルパー)事業所連絡会』との連携において、「とても連携できている」と回答した区の数が増加しているものの、約半数程度である。

・『11.理学療法士会』については、認知されていない区が多く、また、連携もあまり進んでいない。

・『12.在宅医療・介護連携支援コーディネーター』との連携において、ほぼすべての区で「とても連携できている」と回答しており、平成29年度と比較し増加している。

0 6 12 18 24



■ととも連携できている ■連携できている ■連携できていない □全く連携できていない □区内に団体がない

- 全体として、関係機関との連携において、「ととも連携できている」と回答した区の数が増加している。特に、『5.訪問看護ステーション』、『6.地域包括支援センター』との連携では、ほとんどの区が「ととも連携できている」と回答している。
- 平成29年度調査において、ほとんど連携の進んでいなかった『10.訪問介護(ヘルパー)事業所連絡会』において、「ととも連携できている」と回答した区の数が増加したものの、依然として少ない。
- 一方、あまり連携の進んでいなかった『2.歯科医師会』、『3.薬剤師会』、『7.総合相談窓口(ランチ)』、『8.社会福祉協議会』との連携は、「ととも連携できている」と回答した区の数が約半数に増加している。
- 『11.理学療法士会』については、認知されていない区が多く、また、連携もあまり進んでいない。
- 『12.区役所担当者』との連携においては、約半数の区で「ととも連携できている」と回答しており、ほぼ横ばいである。

まとめ

- ・平成29年度と比較し、区役所・相談支援室ともに、全体的に各機関との連携が進んでいる。
 - ・各区に『理学療法士会』が存在していることが認知されておらず、今後連携を進めていくためには、周知をしていく必要がある。
 - ・地域支援事業を一体的に進めていくためには、『地域包括支援センター』、『総合相談窓口(ブランチ)』、『社会福祉協議会』との連携が不可欠であり、連携を強化していく必要がある。
 - ・区役所担当者と在宅医療・介護連携支援コーディネーターとの連携において、「とても連携できている」の回答に相違がある。
- 

今後の方向性

- # 地域における医療・介護の様々な関係機関との連携の強化
- # 顔の見える関係から、切れ目のない医療・介護の提供体制の構築の深化